

総動員伝道

総動員伝道の目標

1. すべての人に福音を伝えよう。
2. すべてのクリスチャンがよいあかし人になろう。
3. すべての教会が成長しよう。

わたしが親しく天から聞いて

総動員伝道 委員 有賀喜一



私もガテマラのアルモロンガに2度訪れ、その実際を見聞きし、生きた証しを沢山聞いたのである。

共通した原則

危機的な最悪の中から、一致して神に向かって祈ること

「わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう」(Ⅱ歴代七・14)。

全教会がそれぞれの霊的な遺産を尊重しながら、その国の救いのために一つになること、そのために相互の悔い改めと和解が徹底的に聖霊に取り扱われて実現することである。その中から一つになって神に祈りをささげるのである。

神からの幻・重荷を与えられた人々の強いリーダーシップと忍耐である

フィジー諸島の変革は短期間で神に

答えられ、クリスチャンの大統領も立てられ、各界指導者たちがクリスチャンになった。しかし、その他の地域では、長い時で60年間の祈りが積み重ねられていたのである。その間のリーダーたちの固い決意と聖言の確信、そして忍耐と信仰が、その結果を引き出したのである。

福音の全部の宣教と驚異的な地にも及ぶいやしである

福音の中心はイエス・キリストご自身であり、十字架と復活がその真髄である。そして今、聖霊によって主ご自身が生きて、救い、きよめ、いやし、解放し、人々だけでなく、自然界まで「地をいやす」とあるように、回復させて下さるという福音の全部を信じ、受け入れ、実践しているのである。しかも、特別な教職者だけでなく、聖霊に満たされた信徒たちが、こぞって用いられているのである。まさに、ここに総動員伝道が生きて働いているのである。

主は「わたしが親しく天から聞いて」と言われるのである。主は誰よりもこの変革を願っておられるのである。この視点で全日本に神のすばらしいわざがなされるよう祈り求めて参りましょう。

今、すばらしいみわざが

Ⅱ歴代七・14

最近フィジー諸島に起こっているトランスフォーメーション(変革)のビデオで、2000年5月全国を揺るがす暴動から一転して、神の生きたすばらしいみわざの詳細を知って大いに励まされたのである。

余り聞いたこともない、また経験したことのない、使徒行伝をはるかに上廻るみわざが、アフリカ、南アメリカ、ラテンアメリカ、オーストラリア、インド、中国、カナダ他、世界の多くの場所で起こっているのである。

先日、ある会合で信徒の方がこうおっしゃいました。そのことばに妙にうなづきを感じました。その言葉というのは、牧師は信徒を奉仕のために外に出さない、それに信徒も出て行こうとしない、という意味の言葉でした。あなたはどう思いますか。

牧師は教会で行なわれるあらゆる集會に信徒が積極的に参加してくださることをうれしく思い、そうするようにと仕向けるでしょう。信徒が教会外の活動でいそがしくすると、教会の集會を優先してもらいたいので、牧師はつい厳しく忠告します。すると信徒は日

曜日は朝から晩まで教会に入り浸ることに

ます。教会内部のことだけに関心が集まり、会員の批判や内部の規定に関心を持つようになります。つまり、小さなことに思いが向き、次第に縮み込んできてしまいます。信徒から活気が消えていきます。牧師は常に信徒を見張るようになります。

これでは窒息してしまいます。信徒の方も、このような扱いを受けてくると、外の奉仕には一切関心がなくなってきました。他の教会の方々と一緒に奉仕するのは煩わしいこととなり、面倒くさくなり、犠牲

を払う事を好まなくなってきました。自分の世界にいると居心地が良くなり、これで満足してしまうようになります。自分の居心地のよいところにじっとしていたい、不必要な神経を使わなくて済むし、余分な犠牲を払うこともしたくないという気分になつてくるのです。

日本の教会は現在、このふたつのが文字通り教会をいのちの乏しいもの、活気のないもの、盆栽のように小さく縮み込んだものになっているのではないかと思えます。



51

信徒が与えられている賜物を牧師が自分の牧する教会のためにのみ用いるのではなく、広く世界に目を開かせ、大胆に主の働き場へと送り出していくようになると思えます。

牧師は信徒をださないようにし、信徒も外に出て行きたくないようになつてくると、教会の空気は澁んできます。近いもの同士の批判に明け暮れるようになります。

外には99%のの人々が主の救い、恵みを知らずに、永遠の滅びに向かっていこうとしているのに、「出さない、出て行かない」では、これらの人々にどのようにして福音が届いていくのでしょうか。



(信徒のためのセミナー)

小助川 次雄

第六課「教会形成と成長を妨げる要因」の学びの10回目です。

「5」この章の最後に、一般的な条件について考えておきます。

詳しい例については、拙著『教会を建てる喜び』67-68ページ(いのちのことは社。ご注文は総伝へ)を参考にしてください。

一つは、教会堂に関する諸条件です。教会堂の立地条件、会堂の広さや外観、周辺の整理整頓など。人が集まるのに適当であるかどうか、入ることに抵抗を感じるようなことはないか、入った会堂の中が、礼拝の場として、祈り、黙想、憩いなどの思いへと誘われるような雰囲気を感じられるかなどです。すなわち来会者を「受容し、歓迎する」心と配慮が見えることが大事です。

このようなことは、「リバイバル(霊的な覚醒)」が起これば問題でないと言われるかもしれませんが、あるいは、信仰的でないとも言われるかもしれませんが。自分にもそういう思いがあ

ります。しかし、これまでの戦後の50余年間の教会生活を通して知らされていることの一つは、人間の自然な、普通または通常の性質や傾向を無視してやっていることは、あまり長くは続かないことが多いということです。もちろん、例外はあります。しかし、あくまでも例外です。そのような場合は、それなりの背景があるようです。

会堂建築(または借家でも)を考慮する場合は、段階的な計画で進むことは大切ですが、その場合でも、できるだけ将来の可能性を考えに入れて検討し、決められることを勧めたいと思えます。

交通の便、駐車場もよく考えると良いでしょう。また、教会の場所についての案内(板)、電柱広告、新聞広告がどれだけなされているでしょうか。「教会」を知ってもらう努力も大事です。それは、場所だけでなく、教会ではどんなことをしているのかを、具体的に知ってもらう努力も必要です。教会新聞の定期的発行や教会案内(カタログ)の定期的配布なども有効です。とにかく、教会の存在と存在意義を知ってもらう努力をしましょう。(もともと、クリスチャンの存在とあかしが最高の広告であることを忘れてはなりません。)

◆スプアと日本伝道

大井教会牧師 住吉英治



ユーレラ・スプア宣教師に導かれ、育てられた者として、ここに紹介できることを大変嬉しく光栄に思う。スプア師は現在81歳である。

カナダから

1951年1月5日、スプア師はカナダのバンクーバーから船に乗り、27日無事横浜に着いた。途中、大嵐に遭い、海は荒れ狂い、船荷を全部投げ捨てての厳しい22日間の航海となった。スプア師26歳の時である。私が生れる1年前である。

1924年、スプア師はカナダのサスカチュワン州に優しい父と厳格な母の3女として生まれた。16歳の時、回心。23歳の冬、聖書学校在学中、ある牧師の「もしあなたが、この国で10人の魂を導くことができるなら、外国では100人を導くことができるでしょう」

との説教を聞き、宣教師としての召しを受ける。やがてマッカーサー元帥の日本の精神的復興のための10000人の宣教師の求めに応じ、他の8人の同志とともに来日する。

東京での備え

スプア師は東京で半年間、日本語と日本の生活習慣について学んだ。その時の教師、岸田容子姉が最初の受洗者となった。スプア師は彼女から日本語を初め、ふすまや障子は座つて開け閉めすること、畳の部屋でお辞儀するときには三指をつけて行うこと、そのほか米の研ぎ方や七輪での火の起こし方に至るまで教わった。しかし一番の感謝は、岸田姉が日本人の心を教えてくれたことであつたという。彼女はその後スプア師と九州に同行するのである。

九州の熊本へ

スプア師の所属する宣教団体JSC(ジャパニーズ・ソール・クリニック)は7月、彼女を九州の熊本に派遣した。最初の赴任地はい草で有名な八代であつた。そこで約1年間伝道し、熊本市内に移る。熊本市では多くの人が救われ、後に牧師になる者もあり、教会も建った。約5年の開拓を終え、次に鹿本郡植木町に導かれた。ここでは石田サト牧師とともに働かれ、沢山の人が救われた。牧師になる者も起こされた。やがて大工である信徒さんの協力

もあり、教会(植木キリスト教会)が建った。4年の後、鹿本郡鹿本町に開拓を始めた。ここでも前原澄子牧師(スプア師と同じく、カナダからの宣教師)というすばらしい同労者が与えられ、

伝道は飛躍的に前進していった。特に多くの若者たちが捕らえられ、献身者が続出した。実は私自身、鹿本キリスト教会で行われた高校生特別伝道集会で救われたのである。今から34年前のことである。約4年間の働きを終え、後を前原牧師に託し、スプア師は残りの伝道生涯を送ることとなった阿蘇郡高森町の地に開拓を始めた。1966年6月のことであつた。スプア師は初めて高森を訪れた時のことをこのように仰っている。「何と寂しい所でしょう。でも汽車から降りた瞬間、何とも言えない大きな喜びに包まれました。この喜びは何でしょう。高森は良い。高森に来よう!」高森は阿蘇の五岳を仰ぎ見、回りを外輪山に囲まれた雄大な地である。スプア師のこの時の感動が、ここに骨を埋める決心をさせたのであろう。

高森でも多くの同志、協力者が与えられた。会堂は転々としたが、82年念願の高森キリスト教会が建った。記録では会堂が建つまでに50名の人がバプテスマを受けたとある。この地でも多くの実りがあり、数人の献身者も起こっている。ちなみに私たちの家族は祖母を除く7人全員が救われ、祖父は

90歳過ぎて、両親は50歳過ぎて洗礼を受けた。そして姉二人と私が献身した。

神への感謝とスプア師の現状

スプア宣教師の日本における伝道の働きは54年目を迎えた。昨年大病をなさり、今はホームに入っておられるが元気で守られ、毎週ホームから主日の礼拝に出席されている。「私はすべてを忘れてしまい、何もできなくなりました。でも皆さま一人ひとりを心から愛しています」と仰っている。そうである。お便りをくださった前原先生(現高森教会牧師)は、「その時その時を感謝して生きておられる先生の存在は、私たちにとって大変大きな祝福となつていきます」と述べておられる。

最後に私の感想を述べておきたい。スプア師はよく聖書を読みよく祈り、よく伝道し、日本人を心から愛した。私にとってはかけがえのない師であり先輩である。

現在大津キリスト教会の米村英二牧師(スプア師に導かれる)の調べによれば、スプア師の伝道によって牧師、牧師夫人、宣教師となつた者の数は30、40名にも及ぶだろうと仰っている。

スプア師を日本に派遣してくださつた神に栄光を帰すとともに、感動の涙と感謝を持ってここに報告する。

「一粒の麦がもし地に落ちて……死ねば、豊かな実を結びます」

(ヨハネ十二・24)。

●献金者「芳名」

2005年2月～3月

(敬称略・順不同)

〔教会〕

富士宮栄光キリスト、東京国際基督、腰越独立、横浜岡村、湘南、白鷹キリスト、本郷台キリスト、松沢更生、世田谷中央、中津福音キリスト、松本キリスト、荻窪栄光、伊集院キリスト、赤坂、千代田福音、池の上キリスト、名古屋神召キリスト、成増日本宣教会代田、金沢中央、久我山宣教、赤羽、サンタクララ、横浜シオン、インマヌエル福音、同盟大井、箕島キリスト、境キリスト、加賀中央キリスト、聖ヶ丘、軽井沢中央

〔団体〕

首都圏キリスト教大会事務所、アチーブメント

〔個人〕

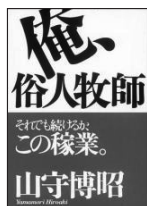
塩島光三、並木サイ、森山信子、石井薫、栗原義忠、姫井雅夫・栄子、北條和人・孝子、須田八重子、大嶋義隆、羽鳥明、深谷春男、浅見鶴藏、桑畑直子、山崎博美、池田るい子、岡本良二、山崎正子、正村八重子、岩崎ひろみ、砂川富子、小林国重、深沢新明、五十嵐茂子、笹山科子、村田法昭・秀子・稔、浅野浩一・和子

「まんがと私」

柿生キリスト教会牧師 山守博昭

教会学校の子供がゼロに近くなつた時、教会で絵画まんが教室を始めました。かつて私が虫プロで働いていたからです。また子供に重荷を持つ兄弟と子供がいない時でもCSに備え一緒に祈り始めました。こうして新しい子供たちが教会に結びついていきます。方法論的には効率的とは言えませんが、共に絵を描くことは、子供たちにとっても、私にとっても楽しい癒しの時です。子供たちと一緒に時を過ごす中に、パウロがローマへの船旅の嵐の中、御使いから聞いた「神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。」(使徒二七・24)とのみことばを期待しています。子供たちも私も同じ船に乗って人生の旅をしているのですから。

最近、旅をテーマに今までの自分の歩みを本にまとめてみました。まんがのように無理なく読めて、面白く、神を伝えるというのが願いです。読んだ未信者の方々からたくさん手紙をいただいています。



『俺、俗人牧師』
定価1,260円(税込)
イーグレイブ出版



◆第六一話

情報が命を救う

昨年の12月26日、スマトラ島沖でM9の大地震が起り、大津波が押し寄せ、多くの人が亡くなり、甚大な被害が及んだ。災害が大きくなった最大の理由は津波の情報が無かった、あるいは遅れたことにある。インドネシアの気象庁は津波の心配はないと警報を出さなかった。テレビ局も4時間半後に津波の情報を伝えた。専門家によれば、津波は深いところではジェット機並の早さであるという。驚異である。日本においても東海地震、東南海・南海地震が想定され、対応が急がれている。予測では大地震の場合、10分以内に津波が押し寄せると言う。

「情報が命を救う」と言うことで、教会もクリスチャンも同じ使命を負わされているのではないか。私たちはキリストの十字架が人々の罪を赦し、救うこと、もしそれを拒否するならば最後の審判が待ち受けているという情報を持っている。これは人々の命・魂を救い、同時に警告ともなる。私たちに委ねられている福音情報伝達の使命は大きく、また急務を要している。

28日深夜、再びスマトラ島沖で大地震が発生し、大きな被害をもたらした。早急な支援と復興を祈り願う。

住吉英治

●ご支援、感謝いたします。

先日、東京・板橋区にある赤塚公園グラウンドでスポーツ・フェスティバルが催されました。7教会から97名が参加し、楽しい時を過ごしました。会堂に閉じこもり、教会内部だけを見ていると窒息しやすいですよ。

夏のトラクト配布のために地元の志摩キリスト教会が宿泊場を提供してくださるようになりました。ハレルヤ

5月にはパーベキュー付路傍伝道を東京・王子駅そばの飛鳥山公園で実施する予定です。

2月会計

収入	297,290
活動費	48,470
ニュース印刷発送	95,634
部屋代	195,421
人件費	0
積立	10,000
支出計	349,525
累計	-148,542

2005年5月1日発行
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
OCC、614号室

総動員伝道

03-3291-5035

03-3291-5266

Eメール sodoin@ybb.ne.jp

ホームページ

http://www.gospeljapan.com/

sodoin/

振替 00140-1-107255

代表 姫井 雅夫

編集 住吉 英治

定価 一部 10円 (送料別)

印刷 新生宣教団 (2,500枚)